

卒業にあたっての学長メッセージ

皆さん、こんにちは。学長の浅尾です。

皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。そして、ご家族の皆さん、お子様方のご卒業、誠におめでとうございます。

本来なら、卒業式において、皆さんにお伝えする言葉なのですが、今年は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、卒業式を中止とせざるをえませんでした。このことをまず、皆さんにお詫び申し上げます。全く予期せぬこととはいえ、このような事態になってしまったことを、私としても、とても残念に思っています。

さて、今回の新型コロナウイルスの騒動を受けて、未知のものに対する不安が、私たちの行動に大きく影響を及ぼすということがよく判りました。これがいつものインフルエンザだったら、もっと冷静な行動を取れたはずなのに、今回の件に関しては、日々更新される情報に右往左往し、いたずらに不安が煽られている状況が続いています。今回の教訓から言えることは、卒業される皆さんには是非、冷静に物事を判断する知性を身につけてもらいたいということです。

「オリエンテーション」という言葉があります。皆さんは大学入学時や 15 回の授業の最初の時に聞いたことがあるかと思います。

「オリエンテーション」とは、もともと方向を定めること、今自分がどこにいるのかの見当をつけることを言います。すなわち、生きていくということは、このオリエンテーションの繰り返しなのです。今、自分はどこにいるのか、そしてどちらに向かって動いて行くのかを見定めるといふこと。人生において、迷うことなく、ゴールに一直線に進む人など誰もいません。途中で道をそれたり、躓いたり、挫折したり、軌道修正したりしながら進むわけです。そういう時に重要なのは、一旦立ち止まって、事態を正確に見定めることです。どうして良いか判らない時でも、いたずらに不安に思うのではなく、じっと我慢強く考え続けられる知性、すなわち知的体力を持つことが大切です。そのためにも、皆さんには、卒業後もずっと学び続けてもらいたいと思います。皆さんの、社会人、職業人としての学びはこれからです。どうか粘り強く、諦めずに学び続けてください。

そして次に、「支え合い」を大切にしてほしいと思います。本学は、教育理念の一つに「自立」を掲げていますが、この「自立」とは、人に頼らないで生きるという意味ではありません。仕事でも、

私生活でも、誰にも頼らないで生きることなどできません。社会での課題解決の取り組みも、チームで行うのが通常の様です。「自立」というのは、いざとなったらいつでも支え合うことのできる人的ネットワークを作って初めて完成するのです。これからの予測困難な、激動の時代を生き抜くためには、支え合いこそが重要です。自分の弱いところは他の人に支えてもらう。一方、自分の得意なところでは、皆さんが他の人を支える側に立つ。「あなたがいてくれて本当に良かった」と言ってもらえるような関係を作ること、そしてそうした場を作れることを心がけてください。

そして最後に、本学の建学の精神である「報恩感謝」の心を、これからも大切にしていきたいと思えます。他者に感謝する心は、他者を思いやり、他者の立場に立って物事を考える態度を育みますし、恩に報いようとすれば、自らの能力をさらに高めようとする態度を育みます。「報恩感謝」の心は、社会において他者との良好な関係を作り、皆さん自身の品格や能力を高めていく重要な教養なのです。大学時代に身につけられた「報恩感謝」の心を、これらも生きていく道標として、充実した人生を送っていただきたいと願っています。

今回、卒業式は行えませんでした。本学教職員は、皆さんの門出を心から祝福し、今後の皆さんの御活躍を祈念しております。そして、いつでも、皆さんの力になりたいと考えています。相談事があれば、遠慮なくいつでも来学してください。相談事がなく来学されるのも大歓迎です。本学は、今年からキャンパス整備を始めました。約5年をかけて順次整備していきます。どんなふうになっていくのか、どうか、また今度、見に来てください。待っています。

皆さん、ご卒業、誠におめでとうございます。またいつかお会いしましょう。